

基本理念	一人ひとりを大切に、心豊かに、たくましく生きる子どもを育成する
めざす子ども像	・あいさつをする子 ・元気よく外で遊ぶ子 ・進んで活動する子
重点目標	①基本的な生活習慣の定着を図り、集団における望ましい態度を育てる。 ②身近な人や自然・地域との関わりを通し、直接体験活動を重視する。 ③園児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活を展開する。 ④保護者支援に努め、地域の子育て支援拠点として機能させる。
具体的目標	①園児の様々な気づきや心の動きに共感する指導に努める。 ②一人ひとりの居場所作りをし、個に寄り添った支援をする。 ③一人ひとりの特性や発達課題を捉え、特別支援教育を進める。 ④保育のねらいや生活の様子をきめ細かく家庭に伝える。(説明責任を果たす) ⑤園小の連携を推進し、小学校への滑らかな接続を図る。(学びの連続性)

自己評価結果(達成状況) 【A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組み(達成)の状況	達成状況	改善の方策(今後について)
園運営	○職員の資質向上 ・計画性のある研修の実施 ○組織体制の充実	○研修の充実を図った。 ・キャリアアップ研修や公開保育研修に積極的に参加した。園内研修では、外部講師(指導主事、保育実践コーディネーター、ピアノ・音楽講師、音楽療法士)を招聘し、専門知識を身に付ける機会となった。また、園で深めたい研修テーマ、ドキュメンテーションやエピソード記録についても学び、保育の質の向上に努めた。・オンライン研修(県、市、町保協等)も計画的に進め、参加した。・研修での学びを職員会議や紙文書配布で共有し、資質向上に繋げた。・職員同士のコミュニケーションを図り、働きやすい職場環境作りに努めた。・ハラスメントアンケートを実施した。・各委員会、幼保部会を定期的に行い、園全体で共通理解を図り、円滑な組織運営に努めた。	B	・専門性向上の為、研修会に積極的に参加し、研修での学びを共有することで資質向上に繋げる。 ・園内研修の機会を充実させ、外部講師を招聘する等、身近な実践事例を通して、職員同士が学び合う機会を増やす。 ・人権に配慮した保育、教育を進めていくために、日々の保育の振り返りや研修の機会を確保していく。
教育課程	○教育・保育課程の作成 ○指導計画の作成・反省 ○発達過程に応じた教育・保育 ○環境を通して行う教育・保育	○幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい、内容に則して教育・保育を行い、子どもの興味、関心にそった環境を工夫した。 ○愛着形成を意識した関わりや言葉がけを行った。 ○発達年齢に応じた保育、教育に取組み、子どもたちが主体的に活動出来る環境作りに努めた。	B	・0～5歳児の発達過程や繋がりを大切に保育、教育を展開する。 ・園児一人一人の育ちの過程や興味、関心に基づいた関わりがもてるように、子どもの姿、心の動きから内面を理解し、主体的に活動できる環境を整える。 ・「保育の見える化」を工夫し、写真等を活用したドキュメンテーションを充実させ、子ども、保護者、職員に発信していく。
子育て支援	○親子の育ち合いの場としての役割や機能の充実 ・すくすくひろば開設、子育て相談、講座等の開設	○「すくすくひろば」を年間112回実施した。・今年度は、0歳児の利用も多かったため、「ベビーマッサージ」を計画し行った。・保育園部の園児と交流し、スムーズな入園に繋がるようにした。氷上地域の他園との交流事業も開催し、交流ができた。・登録児への通信配布とHPの通信掲載で啓発した。・よい子ネット登録により園生活の様子を知ってもらい、園の保育、教育についても発信できた。 ○園内子育て支援委員会、職員の朝食やリラックスタイム(幸せ時間)についてのアンケートを取りまとめ、子育て支援だよりを保護者に配布した。参観日に給食の展示を行った。	A	・「すくすくひろば」では、遊び場の提供はもちろんのこと、子育ての悩みを聞いたり、保護者同士の繋がりが持てるようにしたり、保護者の安心感に繋げていく。 ・氷上地域内の4園の「すくすく広場」の交流事業も継続し、繋がりを広げていきたい。 ・通信のHP掲載やれんらくーる(旧よいこネット)の活用を継続し、子育て支援の内容の充実にも努める。 ・子育てに関する相談や保護者研修等の充実を図る。
安全管理	○園舎の安全、安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の危機管理能力の向上 ・防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、健康診断、歯科検診の実施	○園児や職員の安全を守るため駐在所と連携をとり見回りの強化を依頼している。 ○職員の危機管理能力の向上の為、毎月の避難訓練、誤嚥誤飲防止のための玩具点検、プール監視時の研修、バス降ろし忘れ防止マニュアルの徹底や子どもの人権を守るための研修を行った。 ○交通安全教室を行い、交通ルールについての指導を行った。 ○各クラスでヒヤリハットの事例が生じた時は、朝礼で共有し、事故防止に繋げた。また、怪我等で病院受診した際には、経緯、考察を事故報告書に記載し、全職員で共有した。 ○看護師による健康チェックや健康教室、園医や薬剤師と連携を図り、感染症防止対策をはじめ、園児の健康管理に努めた。・保健だよりの発行。 ○医療的ケア児に対しては、看護師、担任、栄養士、家庭が連携を取り合い、安全に対応できるように配慮した。	A	・毎月の避難訓練で、様々な災害を想定した訓練を実施することで、安全に対する意識や習慣が身につけているので、今後もあらゆる状況に対応できるように、危機管理意識を育てていく。 ・園児の怪我や事故については、その都度、事故報告やヒヤリハットを共有することで、再度繰り返さないための工夫と対策を行い、改善に活かす。 ・感染症対策については、看護師を中心として各担任に感染予防や感染後の対応について指導し、蔓延防止に繋げていくとともに、保健だよりやれんらくーる(旧よいこネット)で保護者へ感染予防の協力依頼をする。 ・アレルギー児への対応は全職員に周知し、事故のないように努める。 ・離乳食に関しては、保護者の聞き取りを行い、安全に提供できるように努める。
教育・特別支援	○一人ひとりの特性や発達課題に応じた支援計画の作成と実施 ○専門機関、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	○市の保健師や心理士による巡回相談を行い、支援方法を共有した。(年5回) ○専門機関(ステップ相談・おひさまにここクリニック・えがお・いっば・CO-COテラス・スタートライン)と連携を図りながら、よりきめ細やかな支援に繋げた。 ○学期毎に支援計画を立て、面談で保護者に説明するとともに保護者の思いを聞き取り、関係機関や小学校(通級・入級等)に繋ぐことで安心して就学できるようにした。・巡回相談日に小学校教員が来園し、支援方法を共有し就学後の支援に繋げるようにしている。	A	・保護者の思いを大切に受け止め、連携を密に図っていく。 一人ひとりの園児に対して実態把握を行い、困り感に対してより具体的な支援方法を協議し、発達段階に応じたきめ細やかな支援に繋げる。 ・学級においても互いを認め合いながら、友だちとの繋がりを大切にできる活動となるよう努める。 ・園児の特性や課題について関係機関と情報共有し、適切な連携と支援を進める。 ・支援を要する園児について、支援方法を全職員で共有し、同じ関わりをしていけるようにコミュニケーションをとり連携していく。
家庭・地域他校種との連携	○信頼される園作り ・情報の発信・受信 ・園行事への積極的な参加の推進 ○小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流 ○地域とのつながり	○感染症の予防対策を行いながら、感染状況を保護者に知らせ、蔓延しないように努めた。 ○個人情報に留意しながら、情報発信に努めた。・一人ひとりの園児に対し、見とったことを連絡帳で知らせた。・園だより・クラスだより・給食献立表・保健だより等で、取り組みの意図や様子を発信した。 ○運動会を幼稚園部、保育園部の2日間に分け、年齢に応じた取り組みを参観してもらうことで、園の保育・教育について理解してもらう機会とした。保育園部の生活発表会を『大きくなったよ参観日』という形に変え、一年間の成長を感じ取ってもらう機会とした。 ○小学校との連携では、夏休みを利用して職員合同研修を行い、2日間の公開保育や研修の場を設け、園の教育・保育(遊び=学び)についてや0～5歳児の発達や学びの連続性の理解に繋げた。 ○登校練習(5回)、小学校見学、体験入学、1、2、3、5年生との交流会、運動会、音楽会練習見学、マラソン記録会、芋づる植えや芋ほりと一緒にするなど、様々な交流活動を体験し、就学への不安を取り除き、期待を高めていけるように進めた。・園小連携会議や児童理解研修を実施した。 ○地域との交流：・氷上シルバーホームの方と交流の機会をもったり、さちよ元気まつりでは子どもたちの絵を展示してもらい、園の活動を地域の方に知ってもらう機会になった。 ○理事、評議員さんに来ていただき、園の取組みや教育、保育について説明したり、保育の様子を見ていただいた。夏祭りやお正月遊びなどの行事に参加してもらい、園児とのふれあいの場を設けた。	A	・信頼される園作りのために、園の教育・保育を発信して理解を得るよう努める。また、保護者の意見に耳を傾け、家庭と園との相互理解を図る。 ・行事のあり方について内容を検討し、園児が主体的に取り組める活動内容を計画していく。 ・行事前の過程や終了後に、振り返り、反省点をまとめ、次への改善となるようにしていく。 ・園での学びが小学校へと繋がるようお互いに参観し合ったり、園小合同研修を行い、教育に対する理解を深める。 ・発達や学びの連続性を意識し、職員間の情報共有・連携をさらに深めていく。 ・園児や児童の姿、家庭状況などを共有し、より良い支援に繋げていく。 ・地域に支えられている園であることを意識し、繋がりを通して、子ども達にも地域の温かさを伝え伝承していく。また、感謝の気持ちを表現し、地元を愛する「さちよっ子」を育成していく。 ・地域の方とのふれあいの機会を積極的にもち、交流を深めていく。

こども園関係者評価(こども園関係者評価委員より)

- ・保護者アンケートより、高評価の結果が出ており、改善に努めながら園運営が進められていると感じる。
- ・達成状況でAの項目が多く、対策を立て改善されているということなのでよいと思います。
- ・子どもの姿から園を楽しみに登園している様子が見て取れ、友だち関係も良好であると感じる。先生との良好な信頼関係も築けている。
- ・小学校とこども園の行事が重なっており、保護者が時間調整等するのが大変であった。小学校との連携を密に行う必要がある。
- ・食育では、野菜の栽培活動で収穫やクッキングを経験し、子どもたちの食の意欲を高めるよい体験活動になっている。
- ・今年度は、保育園部の『生活発表会』が『大きくなったよ参観日』に変わり、発表会を見たいという保護者の意見もあった。行事の形が変わる際は、理由や目的を保護者に周知する必要があると思った。

こども園関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

- ・保護者や地域から信頼される園づくりを目指して、園の保育・教育についての情報発信に努め、連携を図っていく。
- ・職員間の情報共有や連携を大切に研修の充実を図ることで組織体制の強化と保育・教育の質の向上に努める。
- ・園小連携(連絡会議・交流活動・職員合同研修)を進め、子どもたちの発達や学びの連続性を意識した保育・教育を積み重ねながら円滑な小学校への移行へと繋げる。

令和8年3月31日  
園名 認定こども園さちよ  
園長名 足立 智子

